

# 歴史大河

鳥取県発大河ドラマ

第 2 号

編集発行

鳥取県を舞台に！歴史大河  
ドラマを推進する会

事務局

鳥取市佐治町加茂七三九  
田中精夫宅

## 第1回歴史大河ドラマ 選考会開催と、その後の経過

鳥取県内には、県ゆかりの歴史上の人物が埋もれている。それらを主人公にした歴史大河ドラマのテーマの発掘に努めた結果、今年度は最終的に、五つのテーマからなる魅力ある物語が出揃い、去る9月10日、鳥取県立図書館において選考会を開催した。なお、「鳥取県社会福祉協議会・とっとりいきいきシニアバンク」生涯現役』と共催した。



第1回選考会 2017. 9. 10 (鳥取県立図書館)  
参加者：100名 有効投票数：78票

その結果、歴史大河  
ドラマに「三愛のクニへ  
〜澤田節蔵・廉三と美  
喜〜」、朝トラ(朝の連  
続テレビ小説)に「赤と  
んぼの母〜碧川かたの  
生涯〜」を候補として決定した。

今後、ドラマ(大河ドラマ)だけでなく、朝トラや民放テレビも含めてに取り上げていただくよう、関係先に働きかけていくことになる。

なお、選考会の翌々日9月12日は「とっとり県民の日」であるため、「鳥取県誕生」と題して地域史研究家の小山富見男氏にご講演していただいた。

(内田克彦 記)

### 選考基準

- ①主人公に、1年(50回分)にわたり興味を引きつけられるエピソードがあるか。
- ②主人公の人生に、我々に訴えかける現代と共通するメッセージ性、テーマ性があるか。
- ③主人公の人間らしさ・喜怒哀楽・主人公を取り巻く家族愛や恋愛、友人との絆、ライバルといった人間関係により、視聴者に感動を与えるか。

## NHK等に要請活動

要望書をNHKで受理

訪問日 2018.1.15

面談者 鳥取放送局長 小田橋昭仁

同副局長 坪倉義彦

共同代表の田中精夫と内田克彦、及び2017年度歴史大河ドラマ候補代表の片山長生氏、同朝トラ候補代表の四井幸子氏は、NHK鳥取放送局に出かけて放映について要望活動を行った。

### NHK回答のポイント

- ◎NHKから求めたことではない。
- ◎視聴者の要望はお聞きする。
- ◎鳥取県で盛り上がりつつあるかと聞かれたときどう答えたらよいか。
- ◎中部、西部の浸透はどうか。
- ◎原作があるか。

以上の点について回答並びお尋ねがあった。NHKとしては、国内はもとより海外への発信を計画的、戦略的に考えており、様々な地域を舞台にして、女性の視

点や様々な観点での話題作りになるストーリーを考えている。それらに答えられるドラマ作りが必要であるとのことであった。

ともあれ、私たちが提出し要望書はNHK本社に挙げられるとのことであった。今後、大河ドラマ候補「三愛のクニへ〜澤田節蔵・廉三と美喜〜」、(朝の連続テレビ小説候補)「赤とんぼの母〜碧川かたの生涯〜」については、片山長生氏及び四井幸子氏がそれぞれ、顕彰会を立ち上げ、PR活動を推進していかれる。ご協力をお願いします。



岩美町に放映候補作品「三愛のクニへ〜澤田節蔵・廉三と美喜〜」の協力要請を行う。  
2017. 12. 25 (岩美町役場)

## 《大河ドラマと私》

田中健一



印象に残っている大河ドラマのひとつとして、昭和六十四(平成元)年の「春日の局」がある。初回は二十二年ぶりとなる元日放送だったこともあり、大河ドラマの初回視聴率としては歴代最低となる十四パーセントでスタートしたものの、その後盛り返し大河ドラマの歴代三位である三十二パーセントの平均視聴率を記録した人気ドラマである。当時は、春日の局という名前は知っていたもののどんな人かはよく知らなかった。信長への謀反人である明智光秀の家臣、斎藤利三の娘で大原麗子の演じるおふく(春日の局)が、数奇な運命をたどって徳川家の三代将軍・家光の乳母となり、乳母としての影響力を政治の場で発揮しながら、平和のために幕府を支えていく姿は、当時は珍しかった女性が主人公の本格歴史ドラマで、様々な人間ドラマも織り交ぜられて大変おもしろかった。

また、8年前に大阪勤務となった時には、住んでいた堺市の図書館から、堺が舞台の大河ドラマ「黄金の日日」DVD全巻を借りて見た。周囲の人で記憶に残っているという人の多い印象的なドラマで、堺のまちや歴史への興味も増し、市内の古いお寺や自治都市だったときの堀の跡、鉄砲鍛冶、千利休の井戸などを見に行き、すっかり堺市の大ファンとなった。その後、大河ドラマと朝ドラは、ほぼ必ず見るよ

うになり、古文書も多少は読めるようになれればと昨年度新設された古文書検定を受検するなど歴史への興味が一層増し、鳥取の歴史にもあらためて興味が出た。このように、大河ドラマは、地域を理解して愛着を持ち盛り上げていくのに、非常に効果があり、ぜひ鳥取を舞台にした歴史ドラマによる地域の盛り上げを期待したいところである。

## 《碧川かたさんの孫

さんの娘さん》

四井幸子

この度碧川かたの生涯を朝ドラに薦めていくこととなって、私は以前から子孫の方と連絡をとっていたこともあり、孫にあたる碧川浩子さんに手紙でお知らせをした。澤田廉三さんを大河にもついでくこともである。

浩子さん(七十代後半)から丁寧なお返事をいただいたのは一ヶ月後のことでした。その中にご自分のことと澤田様家族のことが書かれていたので、許しを得てここに紹介したい。

昭和三十年、浩子さんが虫垂炎で聖路加病院の二入部屋に入院した時、隣りに澤田さんの娘さんの恵美子さんがおられたそう。ある日、お母様の美喜さんが病院の牧師さん(竹田眞二氏で、その方の奥様は母のかたとはい前からの友達)と一緒に病室に來られ、話をされるこ

とがあった。その牧師さんにかたさんの葬儀をしていただいたので、何か不思議な縁を感じたということ。です。

この出来事より二年前、昭和二十八年澤田廉三のニューヨーク入りの際のエピソードが角秋勝治さんの「鐘は既に鳴れり下」の七〇二ページにある。

「ニューヨークで戦後初の国連大使に就任した澤田廉三が、娘の恵美子連れでホテルへ入る時、女優グレース・ケリーの連れた犬が吠えた。女優は丁寧な謝り、恵美子と仲直りをして親交を結んだ。」

恵美子さんもこの時は父廉三氏に同行していることがわかる。このあたり、片山長生さんの資料によるとこうだ。

「一九五三(昭和二十八)年三月、長男信一を秘書官としてニューヨークに着任した。国内では初代大使といわれたが、正式には「パーマネット・オブザーバー」であって会議での発言権も投票権もない。ただ国連事務総長代理のコーデイエは「国連の如何なる会議・委員会への出入りは自由」を認めてくれた。」

とある。昭和二十八年〜三十年頃、澤田廉三にとっても大切な時、美喜さんにとっても孤児対策に奔走しておられる。そんな頃の浩子さんと恵美子さんの接点を聞き、私も鳥取県人としての縁を感じたものである。

## 響かせようトットリズム展に出展!

このたび、鳥取県から依頼を受けて、平成30年2月17日、とりぎん文化会館ロビーで開催された「トットリズム展」に出展した。

寒い時であったが、関心を持つ多くの参加者や関係者でにぎわった。この展示会は、私たちの活動を広く知ってもらうよい機会となった。(田中精夫)

